

都市再生整備計画

お お い そう ご う し し ょ し ゅ う へ ん
大井総合支所周辺地区

さい た ま け ん の し
埼玉県 ふじみ野市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都道府県名	埼玉県	市町村名	ふじみ野市	地区名	おいそうごうししよしゅうへん 大井総合支所周辺地区	面積	8.0	ha
計画期間	令和7年度～令和9年度	交付期間	令和7年度～令和9年度					

目標
・大井総合支所周辺に都市機能を集積させることによる、賑わいの創出 ・子どもを中心とした学びを推進する施設を地区内に集積させることによる、子育て世代の居住誘導 ・再生可能エネルギー施設の整備による、地域の持続可能性の確保
目標設定の根拠
都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ・ふじみ野市の比較的コンパクトに市街地が形成されている特性をふまえ、都市ストックが整った市街地内の利便性を高めるとともに、時代のニーズに応じた機能更新や空間の質の向上を図ることで、人口動向等に対応した持続可能なまちづくりを進める。 ・市民がいつまでも住み続けられ、新たな転入を促進するために、生活利便性の高い都市構造を構築する。 ・持続可能な都市づくりのために、公共施設等の長期的な保全や利活用に向けた総合的な施設管理の視点に配慮する。(都市施設の維持管理、集約化) ・子育てを推進するための施設を集積することにより、子育て世代の居住を促進させる。
まちづくりの経緯及び現況
大井総合支所周辺地区は、昭和30年代から始まった首都圏の拡大によりしずかなたたずまいから東武東上線の沿線開発にともない人口増加が始まり、昭和40年代にはいと東京のベッドタウン的性格が強まりスプロール化が生じることとなった。このようなことから、昭和50年代から計画的な都市基盤の整備を進めるために、土地区画整理の手法による基盤整備が進められ、現在、鶴ヶ岡地区、亀久保地区、大井・苗間第一地区、東久保地区の基盤整備が完了した。昭和40年～50年代にかけ当該エリアの周りには小学校中学校が建設されている。また、この地区は合併前の大井町庁舎が置かれていた地域であり、公共施設の集積が進んでいる地区である。合併後においても、消防署が建設され災害について学ぶことができる防災館が併設された。また、大井総合支所内に児童センターが開設され、乳幼児を抱える子育て世帯から周囲の学校に通学する児童生徒まで集まる施設となっている。旧大井中央公民館(築40年)の廃止に伴い、公民館事業を包含した事業展開を図る文化施設として図書館を併設した「ふじみ野ステラ・ウエスト(西文化施設)」を整備している。また、市民憩いの森として散策できる雑木林が整備されているなど、この地区周辺の児童生徒が徒歩や自転車で集まることのできる地区を形成している。 資料館については、合併当初から旧上福岡市側に歴史民俗資料館、旧大井町側に郷土資料館と2つの資料館が存在していた。旧大井町側の郷土資料館は図書館との複合施設であったが、図書館がステラ・ウエストに移設したことから、上福岡市側の歴史民俗資料館を廃止し、新たに博物館相当施設として1つの資料館を建設し、子どもの学びを推進する子育て世帯に魅力的な地域を創出を図る。
課題
・ふじみ野市は、平成17年度に旧上福岡市、旧大井町が合併してできた新しい市であり、旧市町時代からの施設設備の老朽化、施設維持のため財政負担が課題である。 ・自治組織の加入率が低下しており、地域コミュニティが弱体化している状況にあるが、まちの活力を低下させないために、高齢化の傾向を地域コミュニティの活性化の契機と捉え、地域における多様な活動を促進することが必要となる。 ・本地区を含む周辺地域は、将来、人口減少が見込まれている。人口減少を抑制するためには、地域の魅力を高めることにより、多様な世代に選択され続けるまちをつくるが必要となっている。
将来ビジョン(中長期)
①ふじみ野市総合将来構想 from2018 to 2030 ・本地区の土地利用方針としては、公共サービスの拠点周辺地域として、それぞれの公共施設を中心とした、豊かな市民生活を支える土地利用を進めるとされている。 ②ふじみ野市都市計画マスタープラン ・本地区は、市民生活を支える福祉・文化・情報・教育・交流等、公共サービス機能の集積を図り、質の高い公共公益施設と歩行者回遊空間の充実により、だれもが利用できる施設・空間づくりに努めるとしている。 ③ふじみ野市立地適正化計画 ・本地区は、市民生活を支える福祉・文化・情報・教育・交流等、公共サービス機能の集積を図り、質の高い公共公益施設と歩行者回遊空間の充実により、だれもが利用できる施設・空間づくりに努めるとしている。 ④ふじみ野市公共建築物個別施設計画 ・ふじみ野市公共建築物個別施設計画を策定済みであり、大井郷土資料館については、大規模改修を行い、上福岡歴史民俗資料館と統合し、展示スペースの充実化を図る旨が位置付けられている。 ⑤ふじみ野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 ・本地区を含む市内全域において、関係人口の増加やその先の移住・定住につなげていく取組を継続して進め、「訪れたい」「住みたい」と思われるようなまちづくりを目指すとしている。

都市構造再編集集中支援事業の計画

都市機能配置の考え方

- ・本地区は、市民生活を支える福祉・文化・情報・教育・交流等、公共サービス機能の集積を図り、質の高い公共公益施設と歩行者回遊空間の充実により、だれもが利用できる施設・空間づくりに努める。
- ・具体的には、既存の文化施設であるステラ・ウエスト等と併せて、郷土資料館を改修することにより、都市機能の集積による賑わいの創出を図る。
- ・地区内に子どもを中心とした学びを推進する施設を集積させることにより、子育て世代の居住誘導を図る。
- ・地域の持続可能性を確保するために、公益施設と一体的に再生可能エネルギー施設を整備する。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方 ※誘導施設を整備する場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

- ・大井郷土資料館と上福岡歴史民俗資料館(地区外)を統合し、市の歴史・文化を伝統芸能のお囃子や地場産業であった箸づくりや機織りなどの体験を通じて学習できる新たな資料館へリニューアルすることにより、地区周辺の小中学校の児童生徒を中心とした施設利用を促進する。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
資料館の利用者数	人	資料館（大井郷土資料館）の利用者数	まちの活力を確保し、賑わいを創出するための拠点施設の状況を測る指標として、当指標を用いる。	11,588人	R4年度	12,794人	R9年度
大井総合支所周辺地域における人口密度	人/ha	大井総合支所周辺地域（約156ha）における人口密度	子どもを中心とした、学びを推進する施設を地区内に集積させ、子育て世代の居住誘導を図る必要があるため、その状況を示す指標として、当指標を用いる。	89.3人/ha	R2年度	89.3人/ha	R9年度
温室効果ガス総排出量	t-CO2	大井総合支所周辺地区の公共施設における温室効果ガス総排出量	再生可能エネルギー施設の整備による、地域の持続可能性の確保を測る指標として、当指標を用いる。	188t-CO2	R4年度	154t-CO2	R9年度

都市再生整備計画の整備方針等

様式(1)-③

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
大井総合支所周辺に都市機能を集積させることによる、賑わいの創出		【基幹事業】(既存建造物活用事業)資料館改修 【提案事業】(地域創造支援事業)展示模型の作成等
子どもを中心とした学びを推進する施設を地区内に集積させることによる、子育て世代の居住誘導		【基幹事業】(既存建造物活用事業)資料館改修 【提案事業】(地域創造支援事業)展示模型の作成等
再生可能エネルギー施設の整備による、地域の持続可能性の確保		【基幹事業】(地域生活基盤事業)太陽光発電〔資料館〕 【基幹事業】(地域生活基盤事業)EVステーション設置〔資料館〕 【基幹事業】(地域生活基盤事業)EV急速充電設備設置〔大井総合支所〕
その他		

大井総合支所周辺地区(埼玉県ふじみ野市)	面積	8	ha	区域	ふじみ野市大井中央1～2丁目の各一部、亀久保2～4丁目の各一部
----------------------	----	---	----	----	---------------------------------

